

質問事項

2012年10月15日 大島堅一

次回の需給検証委員会にあたって、さしあたって、下記の質問をいたします。
どうぞよろしく願いいたします。

●北海道電力について

【供給面】

1) 冬季の揚水発電の運転パターンを示してください。点灯ピークなので、汲み上げ時間と発電時間が夏とは異なるのではないのでしょうか。(厳寒 2010 年実績、2011 年実績、今年度予定について示して下さい。)

2) 資料 4-2 8～9 ページ、資料 3-2-3、一般水力の供給力見通しについて

自社の水力については、河川水位低下や潮位影響に伴う出力低下(定格 84 万 kW に対し、供給力 47.7 万 kW[貯水池 7.6 万 kW+自流式 40.1 万 kW])と見込んでいます(57%)。(※補修停止の滝里 5.7 万 kW を定格から除くと、定格 78.3 万 kW に対し、供給力 47.7 万 kW と見込んでいるが(61%))

これに対して、他社の水力は定格 34.8 万 kW に対し、供給力 29 万 kW(86%)と見込んでいます。

この見込みの差異は何から生じているのでしょうか。自社分が保守的過ぎるのでしょうか、あるいは、他社分が楽観的過ぎるのでしょうか。

3) 資料 4-2 9 ページ

※2で、道外からの自家発余剰購入分 4 万 kW は「融通、その他ーその他」に計上とありますが、p.9 の表では 1.3 万 kW しかみあたりません。その理由をお示し下さい。

4) 風力をなぜ供給力に評価していないのでしょうか。ピーク時に一定量の供給力評価ができるのではないのでしょうか。

1つのウィンドファームではなく、道内合計で過去どうであったのか、データを示して根拠をお示し下さい。

5) 原子力が停止している現在、火力による LFC 調整力、下げ代は大きく増加しているはずですが。それぞれの数値を具体的に示してください。また、その場合の、風力の連系可能量を示して下さい。

6) 資料 4-2 13 ページ

国内炭火力を夜間もフル出力しない理由をお示し下さい。また、国内炭火力は、石油火力よりもコストが高いのでしょうか。

また、国内炭火力は、フル出力できないのでしょうか。

7) 北本連系線について

東北→北海道方向の過去 3 年間 (2009～2011 年) および 2012 年の夏の実績値をお示し下さい。

【需要面】

8) 資料 4-2 27 ページ

冬季需給調整実量特約は件数のみで、kW 値が示されていません。どの程度の抑制 (kW) が可能と見込んでいるのでしょうか。

また、同数 24,000 件であった今夏の実績値をお示し下さい。

9) 資料 4-2 12 ページ

このページの調整契約の件数、kW が、同 25 ページの数値と一致しないようです。理由を詳細にご説明下さい。

10) 冬季のロードカーブについて

特にピーク時間の kW について、下記の区分で示して下さい。

- ①家庭・業務・産業・融雪の分野別
- ②大口・小口・家庭

●九州電力について

【供給面】

1) 他社からの応援融通について

九州電力のホームページに掲載されている資料によると、最大で昼間 76 万

kW、夜間 37 万 kW とあります。昼間の内訳は中部電力 45 万 kW、中国電力 31 万 kW のようです。(資料 3-2-2 には明記されていませんが、九電報告徴収や他社説明資料に書かれています。)

<http://www.kyuden.co.jp/library/pdf/press/2012/h121012-3.pdf>

<http://www.kyuden.co.jp/library/pdf/press/2012/h121012-2.pdf>

これをみると、中部電力、中国電力において、一定の供給力に余裕があり、緊急時に追加で融通すると考えているようですが、事前に融通を見込むことはできないのでしょうか。

また、その場合、連系線容量が制約とならないか、事前の検証が必要ではないかと考えます。

ESCJ の供給信頼度評価報告書（平成 24 年 9 月公表分、http://www1.escj.or.jp/ESCJ_Ippan/Upload/fgzm3vn3shqthvfmuj3pog45/h2409_reliability_report.pdf）によると、中国九州間連系線の九州方向 2 月の運用容量は 47 万 kW とされています。短時間であれば運用容量を超過することもありうるようですが、76 万 kW の応援融通が連系線運用上可能なのか、詳しくご説明下さい。